

# 【まとめ資料】 福岡大堰くぐり穴用水路

①

福岡小学校の南東がわには、広々とした水田が見渡せます。そして、その中を用水路が通っていて、必要なときには、いつでも水田に水を取り入れられるようになっています。それは、今から150年ほど前におこなわれた用水路の大改修工事のおかげなのです。



そもそも、この用水路は、その昔(1660~1705年ごろ)、わたしたちの祖先が生活を豊かにしたいと願い、新しい水田を開くために作りました。

この地区の水田は、そばを流れる七北田川より20mも高いところにあるので、とても水を引くことはできませんでした。

そこで1200mもはなれた坂下地区付近の七北田川に堰をきずき、そこから水路を通すことにしました。水路は川に沿ってほられましたが、断崖になっていたり、急しゃ面になっているところは、「くぐり穴」と呼ばれるトンネルを掘って通しました。沢があれば、その下をU字状に掘り、「わき

上がり」(サイフォン)という工事方法でくぐり穴を掘り、向う側に水を通しました。こうして、「かやの平」と呼ばれていた広い荒地に七北田川の水が引かれ、新しい水田の開墾ができるようになったのです。

ところが、長い年月の間に、くぐり穴の岩がもろくなり、たびたびこわれて水がもれるようになりました。そのたびごとに村人が大勢で修理をしましたが、岩が大きいくずれて、水が噴き出して止まらなくなる年もありました。

このままでは田に水を引くことができない。どうしたら用水路がこわれないようにできるのだろう……。



村人たちはなやみました。そして、いろいろ相談した結果、古いくぐり穴に替わる新しい穴を掘ることになりました。新しいくぐり穴は、陸掘りを少なくして、古いくぐり穴よりも深いがけ土の中にくぐり穴を掘るというものでした。しか